

# 国語

## 古典を楽しもう

2年2組

授業者 木村 康宏

### ■ 単元の目標

- 「徒然草」「論語」に表れたものの見方や考え方につれて、  
「賢い生き方」について考えることができる。
- 「平家物語」の文体の特徴を生かして朗読・群読を行い、  
「平家物語」の世界を楽しむことができる。

### ■ I C T 活用の視点

#### ○ 本時における I C T 機器の位置づけ

「徒然草」から「賢い生き方を学ぶ」という学習活動の中で、自分の読みを友達に紹介する手段として I C T 機器を活用したい。本文の提示・音読・内容紹介や生き方についての自分の考え方等をより分かりやすく説明することで自分の読みを確かなものにできると考える。

### ■ 本時の授業の概要

「徒然草」の教科書以外の段の読み広げをもとに、学習交換会を行う。前時で各自が選んだ段を自力読みし、「賢い生き方」について各自考える。

本時ではそれをもちより、小グループで紹介しあう。その際、荻野文子著「ヘタな人生論より徒然草」の一部を紹介し、徒然草に現代でも通じる知恵がつまっていることを確認する。さらに小グループの代表者が全体で発表し、学習の成果を交換し合う。

学習活動	指導上の留意点
1.本時の学習課題を把握する。	
<p>自分が読んだ段から読み取った「賢い生き方」をお互いに紹介しあおう。</p>	<p>「へタな人生論より徒然草」の一部を紹介し、「徒然草」から賢い生き方を学ぶことを確認し、意欲付けをする</p> <p>なぜ700年前の「徒然草」が現代で読まれ続いているのかという課題をもたせ、生徒の知的好奇心を促したい。</p>
2.自分が選んだ段から読み取った「賢い生き方」を紹介し、話し合う。	<p>一人読みで読み、終わったら違う段も読んでも良いことにする。</p>
(1)自分の見方・考え方と兼好法師の見方・考え方を比較し、共通点や相違点、「賢い生き方」について学んだこと等について個別にまとめる。	
【教材例】「高名の木登り…」、「別れし人」、「堀池の僧正」・・	
(2)自分が選んだ段の学習の成果を小グループで紹介しあう。	同じ段を選んだ人で3~4人の小グループを作るようにする。
(3)グループで学習したこと全体で発表しあう。	プロジェクトで本文を提示しながら発表する。
• 本文音読 • 内容 • 自分の考え（賢い生き方にについて読み取ったこと、考えたこと）	自分が選んだ段から読み取ったことと比べながら聞くようにする。
(4)友達の発表を聞いて、考えた徒然草と兼好法師のすごいところについて話し合う。	時代が違っても今に通じるもの、逆に通じないものの、同じ隨筆でも1年の時に学習した枕草子との違いなどを考えながら友達の発表を聞くようにする。
3.本時のまとめと次時の予告をする。	700年前の人の著書であっても現代に通じる賢い生き方の書としてすばらしいものであることに気付かせたい。